

## 香港ジオパーク認定記念八件報告 2011年3月7日 やっぱ!観光・ショッピング

天気はあまり良くなかったが所定の計画は大東山登山を除いてほぼなした。海拔ゼロからの登山は結構厳しいこと、そしてわずかな高度でも大変良い眺望が得られ、格段に楽しむこともご理解いただけただろう。香港の機動性の良さはどう見えたことだろう。ぼは皆さんを案内して改めてスーパー・モビリティ香港と言った感深かった。

山を終えてホッとしたところで、帰国前の半日を観光とショッピングに充てた。のんびりバスに乗ってればあちこち連れて行ってやるということメンバー前日までとは違ってのんびりとした時間を過ごした。朝食は最初の朝の味が忘れられず、再び松紀粥屋に繰り出した。



ホテルは東涌線オリンピック駅から徒歩5分のコスモ・カオロン。昨年できたばかりとのことと馴染みが無く周囲に何かあるか心配だったが粥屋、そば屋、火鍋屋、コンビニ、パン屋と何でもありしかも安く重宝した。

最後の日に粥やで朝食を食べてホテルの前の公園に来ると紙製のラの背中に豚のラートの塊を乗せ、他方で人形を印刷した紙の両眼を線香の火を当ててくぬき、その紙を靴で叩いている。いかにも不気味な仕草だがあちこちで同じようにやっている。そうして自分に害をもたらす人を呪う儀式たそうだ。HK60出すとこんな祈禱師が代役をしてくれるそうだ。誰をお願いしようか？気分は早く観光気分。







白い洋紫荊



黄金竹



黄槐

香港の街にはあちこちに公園があり  
いつでも花が咲いている。今回  
スタルイで初めて黄金竹を見つけて  
感激した。



魚の発音は余に似ている。魚を  
そばに置けば金が余るのだ。



リビレスベの東端にかつてのタパーバームガーデンを思わせるような一画がある。ただここではトラや獣ではなく  
中国の神様が勢ぞろいしている。いわく観音、関帝、天后、布袋様などなどだ。ここ来れば一気に全ての  
神にお参りできる。それぞれに鳳凰を決めればよいが、ぼは鳳凰に乗った観音様の明るい姿が気に入った。





「香港アルプス」を発行して初めて自分として紹介した「香港八件ツグツアー」を実施した。あれもこれも盛りだくさんの企画にしたので、実行できたのはお割程度だったろうか。メンバーの皆さんには大変なご負担をかけてしまった。しかしおかげでどの程度の内容にすれば良いかがはつきりと分った。また、自分はあまりにも動き過ぎるのでガイドとして役に立たないことを改めて確認した。今後は自分を犬ガイドと呼ぶことにした。このため地元のJackyを手下として同行したのは正解だった。日本人とじっくり付き合いどうしたら納得してもらえるか彼は了解したはずだ。今後彼には登山ガイドの技術も伝授する必要がある。こうした現地ガイドを増やして行きたい。皆さんの感想は未だ伺っていない。ただし、オクトパスをかざして、山や街や海を縦横無尽に駆け回る旅行スタイルから全「新」し香港を見出したことは事実だろう。秋まではもう少し楽で、しかし歩ける企画を作り、Jackyのガイドで募集をした。俺のだ



フルに動き回ったせいか、最後の日のおきまのショッピングも何だか新鮮だった。漢方薬の店ではベトナム語のような日本語で延々と薬の解説があり思わず試し買いをしたがこれが結構効いた。



花文字などは馬鹿にしていたが額入りの結婚祝いの字があり心が動いた。長男がこの春に結婚するのだ。前橋に住んでいたとかで流暢な日本語を話す陳さんがサラサラと色紙を書いてくれた。二人共に龍の絵文字が入り、発展するとのことだ。

最後の昼食はツアー会社設定の飲茶にした。どんな内容かを見てお必要があった。尖沙咀の小路の奥の2階の密閉されたレストランだった。真っ白なテーブルクロスをかけた大テーブルが20ばかり並んでおり既に料理が並んでいる。誰もいないので端のテーブルに着くほどな客が入り始める。驚いたことにその全てが日本人だ。味はそこそこだが何か異様な感じがした。これでは香港は見えない。



空港まではバスをお願いした。どうしたわけか通常の道の南の昂船洲大橋を渡ってれてビクトリアハーバーの南北を門の様に固める2本の高層ビルを眺めることができた。中国と世界の間にある正にゲイの役割を果たしている香港の力をまざまざと感じる景色だった。

金子晴彦 2011.3.20

